

いながわ特派員報告



鎌屋 郁子



本田 さとみ

猪名川の秋を彩る伝統行事



猪名川町の秋祭りは、毎年10月、各地域の氏神様に、その年の収穫のお礼と翌年の豊作を願う行事として行われてきました。今もおよそ30力所の地域で秋祭りが行われました。歴史の古いものから昭和の終わりに始まったものまで、その形は様々で、練り込み、獅子舞、だんじり、みこし、太鼓、山車などがああります。



元気な子どもみこしが住宅地を練り歩きます(伏見台)

伏見台八幡神社の秋祭り

新興住宅地の神社

皆さんは伏見台の住宅街に、新しくきれいな神社があるのをご存知でしょうか。「ニュータウンに神社？」と珍しく思う人もおられるでしょう。この神社は伏見台八幡神社といえます。日生ニュータウンが造成される前、今の伏見台2丁目にあたる山林にあり、約1千年前から内馬場の住民の手により守られていました。昭和63年1月、伏見台に住宅地が完成すると同時

に、日生ニュータウンの繁栄を願って、同4丁目に移され、ここでも秋祭りが行われるようになった。祭りだわっしょい!

10月20日、前夜の雨は秋晴れに変わり、八幡神社で秋祭りが行われました。秋祭りに子供会を中心に30人の子ども達が集まり、子どもみこしが始まりました。前日まで準備をされてきた役員に加え、子ども達の家族も参加します。

伝統を守り続ける難しさ

伏見台では、神社に参拝する人は年々増えています。祭りの行事に参加する人が少ない

各地域のお祭り

獅子舞(内馬場) 10月12日、内馬場八幡神社内において、獅子舞が披露されました。内馬場の獅子は、珍しい雌の獅子で、舞い方が雄より優しいそうです。雌ということで、子どもを連れており、「獅子の子」役の子ども3人が、太鼓を叩きながら獅子舞に参加します。内馬場自治会長の鍋谷将さんは「舞い手の後継者問題もあり、伝統を守っていくのは大変ですが、みんなで団結して守りたいです。他の地域の方もぜひ、内馬場の獅子舞を見に来てください」と話していました。



練り込み(杉生・西畑) 10月18日、杉生にある八坂神社で、子ども歌舞伎「練り込み」が行われました。「練り込み」とは、江戸時代、町北部で盛んだった農村歌舞伎が形を変えて、現代に受け継がれているものです。化粧をした小さな歌舞伎役者達は、太鼓、笛、拍子木に合わせて、歌舞伎の一場面を堂々と披露していました。



山車(島) 10月12日、島地区の秋祭りでは、約60人の子ども達による「山車引き」が賑やかに行われました。従来の子どもみこしに変わり、昨年から山車引きが行われています。この山車は住民の手作りで、島の人達の秋祭りへの思いが込められています。作る際、一番気を使ったのは安全性とのこと。子ども達は重さ1.5tもある手作りの立派な山車を、今年も元気に引きました。



布団太鼓(猪淵) 10月12日、秋晴れのもと、今年新たに作り替えられた布団太鼓が、猪淵の秋祭りを彩りました。この祭りは真紅の布団が三重に重ねられ、その下にある太鼓を子ども達が叩いて、地区内を練り歩くものです。太鼓の音が山あい響き、のどかな温かい感じのする祭りでした。

編集後記

子供の頃、みこしの上で太鼓を叩く男の子を、うらやましく思ったものです。祭りというと男性が表舞台に立ち、女性は裏方というイメージでした。今では女の子も主役になり、みこしの上に乗って太

鼓を叩いたり、獅子の子ども役になったりと時代の流れを感じました。地域の人は、少子化や高齢化が進む中、秋祭りの形を少しずつかえながら、伝統や文化を残そうと努力されています。特色ある秋祭りが続くことを願っています。

【いながわ特派員】